

# 平成30年度 行政評価表

担当課	クリーンセンター
章名	第4章 緑あふれるにぎわいのあるまちに暮らす
節名	第2節 環境にやさしい地域づくり
施策名	2. ごみの適正処理と減量・再資源化の推進

施策の内容	目指す姿	町民や事業者が高い意識を持って地球温暖化やごみの減量・再資源化などに取り組んでいます。また、暮らしやすいまちづくりに向けた生活環境の向上や美化活動が推進されています。
	現状と課題	地球温暖化により、地球規模での生態系への深刻な影響が懸念されています。低炭素社会(地球温暖化の要因となる二酸化炭素などの温室効果ガスが少ない社会)を実現するため、本町では公共施設の緑化活動や太陽光発電による再生可能エネルギーの普及に努めており、町民、事業者、行政それぞれの温室効果ガス削減に向けた取組を行うことが必要となっています。 循環型社会の実現に向け、ごみの減量・再資源化を推進しています。1人1日当たりのごみ排出量は横ばい傾向にあり、再資源化については11種類の分別収集や自治組織や子供会などによる資源回収を進めています。循環型社会構築のため、再資源化に向けたより一層の取組が必要となっています。また、ごみの安定的な処理を図るため、クリーンセンターの老朽化対策とあわせ広域的なごみ処理について検討・推進していく必要があります。 生活環境の保全や美化活動、水環境の保全、水の安定供給など快適な暮らしの確保に向けた一層の取組が必要とされます。

まちづくり目標値	指標名	現状(平成25年度)
(1)	1人1日当たりのごみ排出量	854g
(2)	ごみの資源化率	15.9%
(3)		
(4)		

目標値への推移	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	目標(平成31年度)
(1)	856g	833g	824g	838g	820g
(2)	15.70%	15.94%	15.71%	14.77%	16.70%
(3)					
(4)					

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)				
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	437,823	430,219	0	0	61,123	369,096

今年度の施策達成度	A	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。(進捗率71~100%)
		B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%)
		C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。(進捗率0~30%)
施策達成度の理由(施策に対する今年度の実績及び効果)	クリーンセンター施設の修繕・メンテナンスを適切に行い、安定的にごみ処理が行えた。一日当たりのごみ排出量・ごみの再資源化率については、昨年度と比較し若干悪化したが、本年度は広報にてごみの分別に関する特集を組むなど、町民の方に向けてごみの減量・再資源化率向上のための啓発活動を行った。		

施策実現のための課題	施策を取り巻く環境の変化について	ごみの減量化やリサイクル意識の向上により、搬入されるごみの量はほぼ横ばい傾向にある。また、クリーンセンターは、運転開始から30年が経過し、修繕箇所が増える傾向にある。
	住民ニーズの変化について	処分する機会の少ないものや大きな廃棄物の処分をしたい時など、分別方法等について多様な相談がある。
	展開した事業は適切であったか	施設の修繕及び定期メンテナンスに重点を置いた事業を展開したが、施設の安定稼働を実現するため、今後もより一層設備の維持管理に重点を置いた事業の展開が必要である。
	施策を達成するうえでの障害について	分別の不十分なおみが見えられ、ごみの再資源化率向上を阻害する要因の一つとなっている。施設の修繕・維持管理には多額の費用がかかる。

次年度以降における施策の具体的な方向性	安定したごみ処理を継続するために、引き続き施設の修繕・維持管理に重点を置き、延命化を図っていく必要がある。また、リサイクル可能な搬出物として、焼却灰の一部をリサイクル業者へ搬出しているが、リサイクル推進のため搬出量を増加する。そのほか、「容器包装プラスチック」及び「ペットボトル」それぞれの減容施設の修繕・定期メンテナンスを行い、圧縮・梱包品として搬出できるように重点を置いて事業を展開する。
---------------------	--

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	新たな情報発信の取り組みとして、広報にてごみの分別に関する特集を組み、町民の方に分かりやすい形での情報発信を行った。
----------------------	--